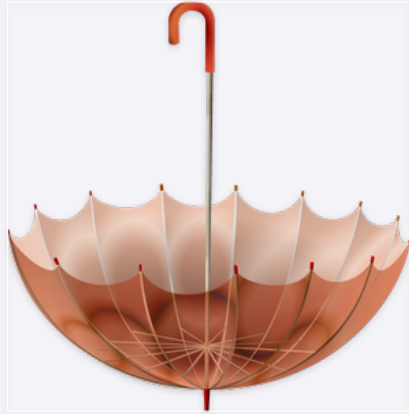


# 平井-ベルクソンの汎心論への質問



國領佳樹（立教大学兼任講師）



2019年12月14日

シンポジウム「汎心論を再起動する」（於：中央大学）

知るがいい、万物は自分の掟や、目的や、たどるべき道を心得ていることを、

星から虫けらにいたるまで、広大無辺な宇宙は、おたがいの言葉に耳を傾けていることを。

宇宙の万物はそれぞれ自分の意識をもっていることを。

(ヴィクトル・ユゴー「闇の口が語ったこと」『ヴィクトル・ユゴー文学館 第一巻 詩集』、辻昶ほか訳、潮出版社、2000年、133頁)

# 4つの論点

- (a) 質の結合問題
- (b) 主体の結合問題
- (c) 構造の結合問題
- (d) 境界付け問題

## (a) 質の結合問題

- 多数のミクロな現象的性質を、何が一つのマクロな現象的性質にするか？

# 二種類の汎心論

- 構成主義的汎心論

- ▶ 一つのマクロな現象的性質は、ミクロな現象的性質によって**構成**される。つまり、私たちがもつような現象的意識は、ある特定の仕方で因果的・時空間的に関係づけられたミクロな現象的性質の集合に他ならない。

- 創発主義的汎心論

- ▶ 一つのマクロな現象的性質は、ミクロな現象的性質の集合から強い意味で**創発**する。

Cf. Hedda Hassel Mørch (2018)

## (a)に対する平井-ベルクソンの回答

- 「多数のミクロな質を、何が一つのマクロな質にするか。マルチ時間スケール。生物進化により、システムのより大きな時間的延長が得られ、環境の物理刺激との時間スケールギャップ (TSG) が顕著に。そこから凝縮」 (強調引用者 平井氏のメモより)

# 凝縮理論

- 生物の身体の内在的時間スケールはシステムの複雑化に伴い大きくなる。
- そのため環境の物理刺激との時間スケールギャップ（TSG）が顕著に。
- 感覚質は、物質の多数のミクロな瞬間を時間的に融合したことによる融合創発の効果である（凝縮）。凝縮による創発が現象的な質であることの条件。
- しかし、凝縮される前のミクロな瞬間自体も「薄められた」質を保持している。結局は、いかなる運動も「時間的延長を持つこと＝ゼロ瞬時ではありえないこと」が（プロト現象的な）質であることになっている。

（平井氏のメモより）

# ハイブリッド説

- ボトムアップの側面

- ▶ 外界の实在との相互作用(TSG)から現象的性質（少なくとも要素的なそれ）の成立を説明。この点で**实在論的**、汎質論的。プロト現象的質に意識が因果的に依存しているだけでなく、**構成的な関係**にある。

- トップダウンの側面

- ▶ 記憶力。質の蓄積と、蓄積された質内容のシステム化を想定。認識主体・行為主体をこの蓄積に求める。記憶力：現在の相互作用が担う情報以外の情報リソースとその組織化。

(平井氏のメモより)

# ハイブリッド説と素朴実在論

- もしこのハイブリッド説が、「知覚経験の現象的性格を決定するのは何か？」という問いの回答ならば、（一見すると）以下のような主張が述べられていることになる。
- ▶ 私たちがもつような知覚経験の現象的な性格の一部は、ミクロな現象的質（の集まり）によって構成される。（素朴実在論的な側面）

# Question 1

- もしそうだとすると、以下のような二つの主張が述べられていることになってしまわないか？
  - ▶ プロト現象的質（＝マイクロな現象的質）は、私たちがもつような知覚経験の現象的な性質に対して**構成的**である。
  - ▶ プロト現象的質（＝マイクロな現象的質）は、私たちがもつような知覚経験の現象的な性質に対して**創発的**である。

## (b) 主体の結合問題

- 汎質論では、ミクロな現象的性質  $p_1$ 、 $p_2$ が何らかの仕方から、マクロな現象的性質  $P$ を説明する。では、 $P$ の主体  $S$ （担い手）は、どのように  $p_1$ 、 $p_2$ の担い手  $s_1$ 、 $s_2$ の結合から生じるのか？

## (b)に対する平井-ベルクソンの回答

- 主体の結合問題。TSGの効果として生じるだけであれば、質はその場限りのもの。しかし、それらの質が蓄積・保存され、互いのネットワークが自己組織化される（システムを形成する：vs. 相互に外在的・離散的に保存されるだけの連合主義）と、現在の相互作用で立ち上がってくる感覚質を待ち受ける側の心的領域を持つことになる。記憶の逆円錐。これが主体に位置する。

（平井氏のメモより）

# 純粹知覚理論

- 汎心論を構成する心身の外延が異なる。「脳を含む身体を構成する物質粒子の総体」に対応して一つ分のマクロな心があるのではなく、身体と相互作用する環境まで含めた広がり範囲だけ、知覚される質も広がっている。

(平井氏メモより)

# Question 2

- 純粹知覚理論が正しければ、マクロな現象的性質の主体（担い手）は、脳を含む身体と外界の事物の集合になってしまうのではないか？